

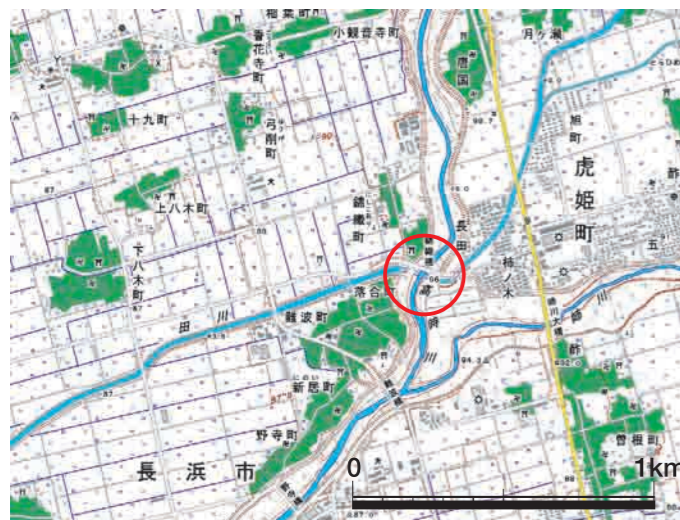
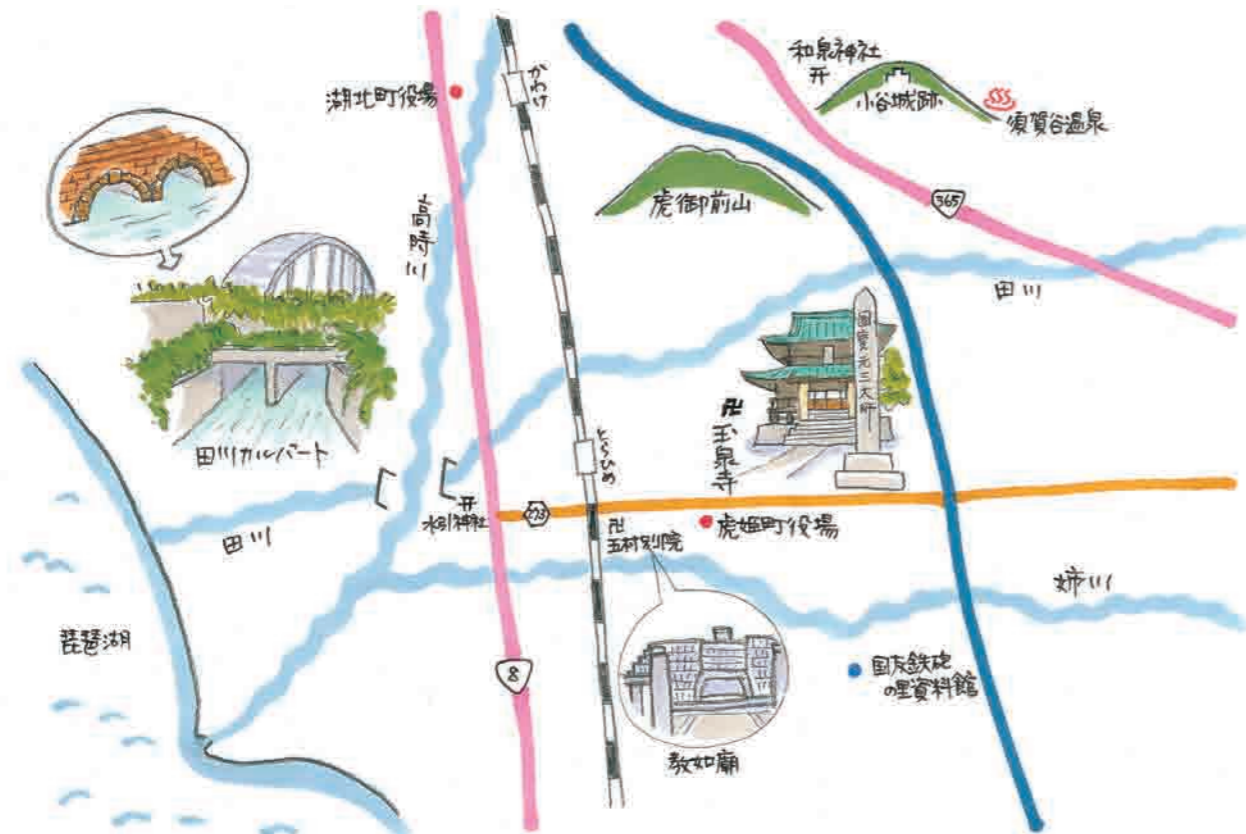
周辺の  
みどころ

重要文化財五村別院本堂・表門

虎姫町五村にある五村別院の本堂（享保15年（1730）は、桁行9間、梁間7間、向拝3間、入母屋造の大きな建物で、外陣・余間・内陣からなる真宗寺院特有の平面形式である。柱や虹梁の木割が太く、各部の絵様の意匠が古風な趣を持ち、藁股が大柄でせいが高いことが特徴である。表門（延宝2年（1674））は一間一戸の薬医門で、冠木や親柱が木太く、絵様の円形に近い渦文など本堂と共通する特徴を持つ。建築を手がけた西嶋家は、近世湖北地方で活躍した工匠で、意匠の特徴はその作風をよく示している。



五村別院表門と本堂



【アクセス】

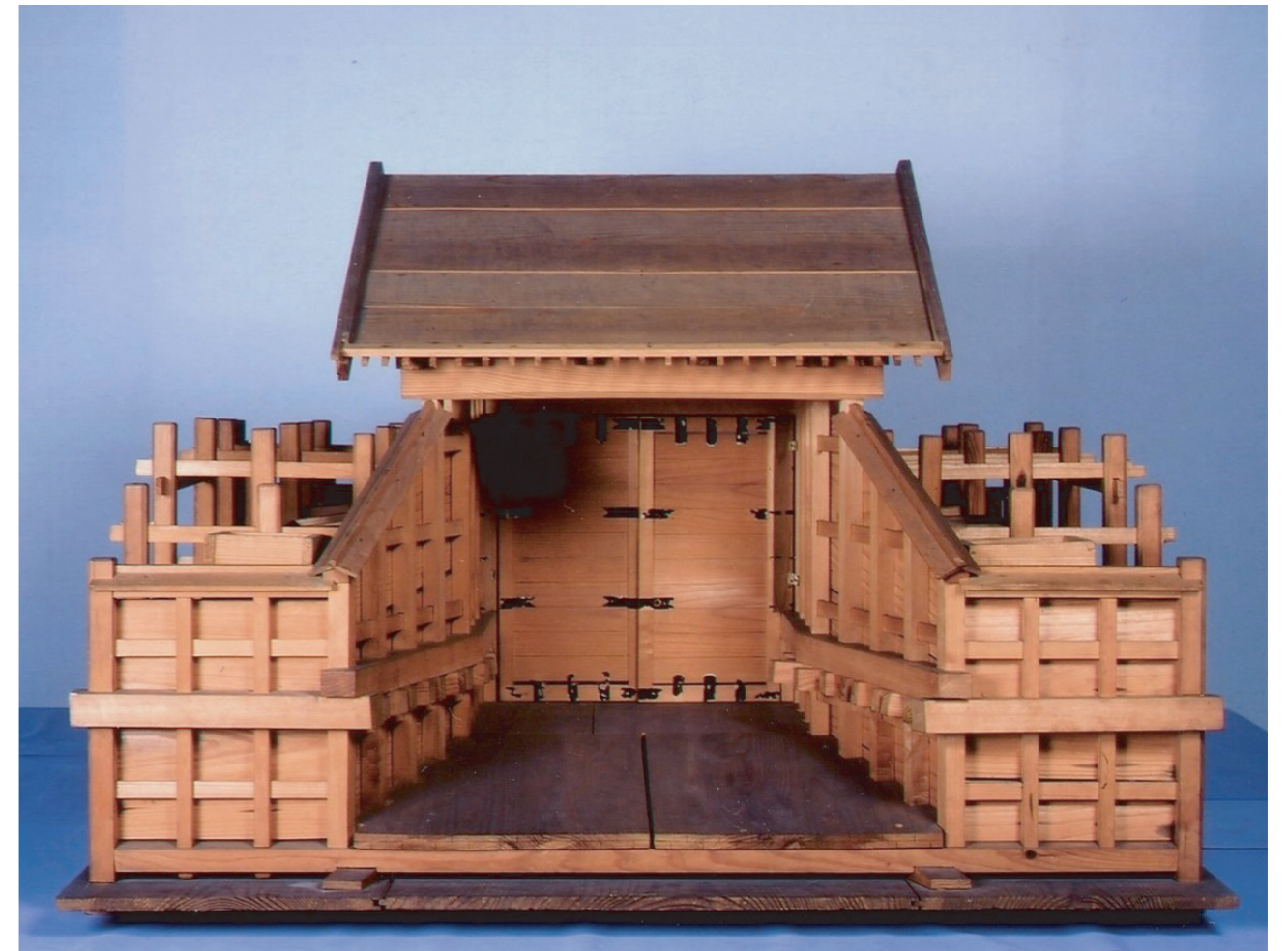
●JR北陸線虎姫駅下車、西へ徒歩約20分。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】  
(関連文献/関連施設)

- 滋賀県長浜土木事務所『田川沿革誌』
- 東浅井郡教育会『近江東浅井郡志』
- 虎姫町いきがいセンター内資料展示室（逆水門模型展示）  
Tel. 0749-73-2335

# 田川カルバート

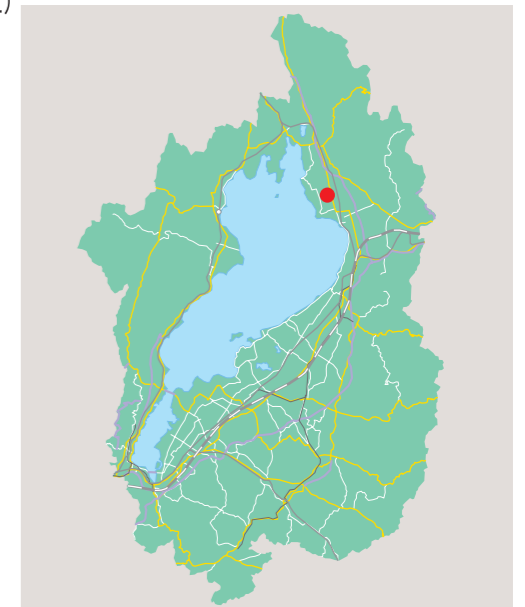
東浅井郡虎姫町唐国ほか



田川逆水門模型（町指定文化財：江戸時代：虎姫町いきがいセンター内資料展示室）

農地にとっての大いなる恵みである河川は、一方で生活や生命を脅かす自然災害をもたらす。

人々は知恵を集め、策を練り、水を活かし水を制御する技術を発達させてきた。三川合流による水害に悩まされてきた虎姫町周辺の田川で建設されたカルバートは、川を立体交差させるという珍しいアイデアによるものであった。このカルバートは、お雇い外国人デ・レーケの提案した計画を、努力によって磨かれた日本人の技術が実現した明治初期を代表する構造物である。またそれは度重なる水害に対する、田川の災害克服の記念碑でもある。





現在の田川カルバート

## 田川カルバート

所在地 東浅井郡虎姫町唐国ほか

### 田川カルバート前史

かつて田川と高時川と姉川の3つの河川は長浜市落合周辺で合流していた。江戸末期、天井川である姉川、高時川に対し田川は停滞、長雨や集中豪雨がおこれば、田川に姉川の水が逆流し、周辺は洪水の被害に見舞われる状況であった。洪水を防ぐため、高時川の合流地点を下流へ下げる工事や、田川を分岐し、その水を高時川の下に通した伏樋で下流の新たに設けた川から琵琶湖へ流す工事、姉川の逆流を防ぐための水門の建設が行われた。しかし姉川、高時川の河床は益々高くなり、また伏樋、水門は木製のため腐朽が著しく、洪水の危険性が高くなったことから、周辺住民は、彦根藩や県に対し田川の改修工事を請願し続けた。

### デレーケ登場

ヨハニス・デ・レーケは、明治6年(1873)、明治政府により河川改修や治山・治水事業等

の指導のために招かれたオランダ人技師である。田川で指導を求められた彼は、田川、姉川、高時川を完全に分流する方法と、現状の伏樋の断面を拡大し新たに作った田川下流の川幅を拡大する方法の2つを提示、県令籠手田安定は後述の方法を採択し、原案の執行を決定した。

### 田川カルバート

工事は、明治16年(1883)に着手し、翌年6月に竣工した。カルバートは、幅3.0m、高2.0m、長109m、上部にアーチを架けたカマボコ状断面の暗渠を左右に2つ並べる。基礎はコンクリート、側壁と底部は石造、上部アーチ部は煉瓦造である。大阪藤田組が請け負い、森寺技師による設計で、工事費は48,841円75銭2厘、その内約3割は田川上流の4ヶ村の寄付であった。

その後、明治26年(1893)~27年に上部アーチ煉瓦積みの上をセメント・コンクリート



田川カルバート竣工古写真



田川カルバート上部の高時川川床石張り現況



田川カルバート工事中古写真



田川治水功労者碑

と粘土で二重に覆い、更にその上部の高時川河床に石張りを施す背部包囲工事が行われた。明治28年(1895)には大洪水でカルバート内部が大破したため、底部にコンクリートを打ち、その上に石張りのインバーテッド・アーチ(逆迫持・逆アーチ)を設ける計画を決定した。翌年に工事に着手し、明治31年(1898)に完了した。昭和4年(1929)年に、高時川の拡幅工事に伴い、既存のカルバートに鉄筋コンクリート造のカルバートを継ぎ足す工事が行われた。昭和36年(1961)年には北濃尾

地震による田川災害復旧助成事業として修理が行われた。

現在の田川カルバートは、従来のカルバートに隣接して昭和41年(1966)年に竣工し、幅4.2m、高4.2m、鉄筋コンクリート製2連、長さ216m、従来の2倍の疎通能力を持つ。田川のカルバートは、川を立体交差させた珍しい構造物であり、お雇い外国人デ・レーケが砂防以外に関わった滋賀県内唯一の遺構である。また、三川合流による水害の絶えなかった田川の災害克服の記念碑的建造物でもある。